

# 日本地衣学会

# No.20

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	観察会報告.....	67
	第2回青空地衣教室(田沢湖畔)の報告 / 小峰正史.....	67
	第3回青空地衣教室(箱根)は中止 / 安斉唯夫・木下靖浩.....	69
	ニュース.....	69
	青空地衣教室(玉原高原)のご案内 / 安斉唯夫・木下靖浩.....	69

## 観察会報告 Reports of JSL Field Meetings

### 第2回青空地衣教室(田沢湖畔)の報告

去る5月17日(土),秋田県田沢湖町田沢湖にて日本地衣学会主催の「第2回青空地衣教室」が行われたので、報告する。

当日,秋田県は晴れの予報ではあったが,午前中はやや雲が多く,暑くもなく寒くもない,観察会日和とも言うべき空模様であった。

まずは,幹事一同(山本,原,小峰)の拠点である秋田県立大学秋田キャンパスに,青空教室に参加する大学生,大学院生らと午前9時に集合,乗用車4台に分乗して,第二集合場所であるJR田沢湖線田沢湖駅に向かう。日が高くなるにつれて雲が切れてくるが,角館から田沢湖町と山地に近づくと少しモヤがかかりはじめる。集合時間よりやや早め,午前11時にJR田沢湖駅に到着し,残りの参加者が合流するのを待つ。午前11時半,全参加者が集合し,青空

教室の目的地である田沢湖畔に出発した。今回の青空観察会の参加者は18名,秋田県からの参加者14名の他,岩手,宮城,栃木の各県から参加があった。参加者のうちの7名は青空教室(地衣類観察会)初参加であり,自然の中で自生している地衣類に接するのはこれが初めてである。

さて,田沢湖畔に到着,最初のポイントである湖畔東側の「県民の森」にて,最初の観察を行う(図1)。まず



図1. 県民の森(田沢湖東岸)にて。



図2. 御座石神社(田沢湖北岸)にて記念撮影.



図3. 瀧尻(田沢湖西岸)にて.

は講師である山本氏より地衣類に関する基礎的・全般的な説明があり、付近の樹木表面に着生する地衣類を示しつつ、各論的な解説が加えられた。今回の青空教室では、教材として「東北の地衣類Ⅰ - 田沢湖の地衣類 - 」という小冊子が参加者全員に配られた。この小冊子は、秋田県立大学の学生教育制度のひとつである「学生自主研究」の成果に基づいて作成されたものである。学生自主研究とは、学部1,2年生を対象に大学における研究活動を経験させることを目的に、学生が希望する研究テーマに対して大学が研究費を支給する秋田県立大学独特の研究制度である。平成14年度の学生自主研究において、山本氏を指導教員として「田沢湖畔の周囲環境に

じた地衣類分布」に関する研究が実施され、田沢湖畔の東西北各地点における地衣類の分布が調査された。田沢湖は周囲を山に囲まれており、日照時間と気温、湿度などの条件が、湖畔の各地点で顕著に異なっている。このような気象条件の違いが地衣類の分布にどのような影響を及ぼしているかを明らかにするのがこの学生自主研究の目的であり、その成果をまとめたのが小冊子「東北の地衣類Ⅰ」であった。ちなみに、本青空教室には学生自主研究に携わった秋田県立大学生2名も参加している。

30分ほど田沢湖東岸の「県民の森」で観察を行った後、田沢湖ドライブインに移動して昼食。午後1時過ぎに第二の観察ポイントである田沢湖北岸の「御座石神社」に向かう。この頃にはモヤも晴れ、快晴のもと、日本有数の透明度を誇る田沢湖の水は美しい藍色に染まっていた(図2)。

御座石神社は湖岸に接して建てられており、日当たりがよく、適度に湿り気がある。他の地点では見られないロウソクゴケやヘラガタカブトゴケなどが自生しているほか、樹皮一面に地衣類が着生した木があり、参加者の興味を引いた。

つづいて、最後の観察ポイントである田沢湖西岸の「瀧尻」に移動、観察を行った。ここは、金色のたつこ像がある観光スポットのひとつであるが、一行はその脇を素通りして観察ポイントへ。そこは秋田プリンスホテルの中庭で、宿泊客でもなく、ホテルの喫茶店でコーヒー一杯飲むでもない、真正銘の通りすがりがホテルの敷地内をうろつくのだから、大胆なものである(図3)。ここではカラクサゴケが多く見られ、西岸でのみ見られる地衣としてはクロウラムカデゴケ、タカハシウメノキゴケなどがある。

午後2時過ぎまで当地で観察を行い、本日の日程を

終了, JR 田沢湖駅にて解散となった。好天に恵まれ, 参加者も多く, 盛会であった。また, 観察会に初めて参加した 7 名も 地衣類に対する興味が深まった模様で, 今後の青空教室, 観察会にも参加を希望していた。このような活動を通して 地衣類に関心を持つ人を一人ずつ増やして行くことにより, 日本における地衣類研究の裾野を広げてゆくことができれば喜ばしいことだと思う。参加していただいた皆様に, この場を借りて感謝の意を表したいと思う。

日本地衣学会第 2 回青空地衣教室概要

日時 2003 年 5 月 17 日(土) 11:30~

場所 秋田県田沢湖町田沢湖畔

参加者 18 名

(小峰正史: 秋田県立大学)

### 第 3 回青空地衣教室(箱根)は中止

2003 年 6 月 1 日に箱根を会場に予定されていた, 第 2 回青空地衣教室は台風のため中止となりました。

代替として 7 月 20 日頃に, 群馬県の玉原高原にて観察会を開催の準備を進めています。

(安斉唯夫・木下靖浩: 地域活性化委員会関東)

## ニュース News and Announcements

### 青空地衣教室(玉原高原)のご案内

6 月 1 日に箱根で予定されていた青空地衣教室に代わって, 下記のとおり 7 月 20 日に群馬県の玉原高原で青空地衣教室を開催することになりましたので, ご案内いたします。

\*\*\* 記 \*\*\*

日時: 2003 年 7 月 20 日(日曜日) 10:10 集合(JR 上越線沼田駅)

(特にご希望の方は, 翌 21 日も原田先生と歩くことが可能です。詳細は検討中)。

場所: 群馬県玉原(たんばら)高原(沼田市)。

内容: 主にブナ林の地衣類を観察します。

講師: 原田浩先生(千葉県立中央博物館)

参加費: 一般 2500 円(家族でも同額), 学生 1500 円。

ただし参加者数が一定数以上となった場合には, 人数に応じて割引となります。

定員: 14 名(申し込み順)。現地(玉原高原)に自力で集合できる方は, 14 名の定員を超えた場合でも参加可能です。

行程

10:10 第一集合場所/JR 上越線沼田駅改札

「原色日本地衣植物図鑑」を抱えている人に声をかけてください。乗用車に分乗して玉原高原に向かいます。

11:00 第二集合場所/玉原高原ラベンダーパーク(バス・車利用の方)

15:00 頃 現地解散(JR 沼田駅解散 16:00 頃)沼田駅までの交通機関

・東京駅発 8:04 新幹線 Max たにがわ 433 号高崎駅乗り換え沼田駅着 10:03 [¥5430]

・上野駅発 7:20 在来線特急水上 1 号沼田駅着 9:30 [¥4330]

・東武東上線と光市駅(池袋から約 20 分)改札 8:00 集合 安斉氏の自家用車同乗[¥1 台 2900 円], 3 人まで, 事前申し込み必要

持ち物

雨具を忘れずに。10~20 倍のルーペ, 筆記具。

申し込み: 参加ご希望の方は, 連絡先, 当日の交通機関を付して次のあて先に連絡して下さい。

安斉唯夫 kozaiwa@jcom.home.ne.jp

Fax03-6780-8818

電話 044-900-8818(ゼルグプランニング)

木下靖浩 ponkichi@mtj.biglobe.ne.jp

当日の緊急連絡先

安斉唯夫携帯電話 0902-759-7872

木下靖浩携帯電話 0901-264-9858

主催

日本地衣学会 地域活性化委員会 関東

(安斉唯夫・木下靖浩)

## 雑記 Miscellanea

### 千葉県立中央博物館の地衣類標本庫

私が地衣類担当として勤務する千葉県立中央博物館は1989年2月にオープンした。私はその前年の4月に博物館準備室のスタッフとして千葉県職員になってからは、地衣類標本を収集し、今では約2万点となり、このうち8千点ほどが完全に整理された状態となっている。この標本庫の様子をこれから紹介していきたい。

博物館は2階建て、その2階部分が展示室、1階部分が研究室や執務室、講堂などとともに6つの主な収蔵庫がある。そのうち第3収蔵庫には、地衣類、蘚苔類、きのこ、微小菌類の4分野の標本等資料が保管されている。部屋は中二階となっていて、その1階部分に地衣類のコーナーがある(図1)。

ここにスチール製のロッカーが設置されている。1台には左右2列、上下4段、計8つの引き出しが備わっている。その引き出しの中を左右2つに区切り、標本はカ

ードのように整理されている(図2)。ひとつの引き出しに50から100点の標本が収容できるので、1台で400から800点。ロッカーは30数台あるので2万から3万点ほどの収容能力である。未整理の標本を含めると、既に2万点ほど集まっているので、そろそろロッカーは窮屈になりつつある。ただ、図1をご覧のように、ロッカーをもう1段積み重ねるスペースがあるので、空間的にはこの2倍以上の収納は可能である。問題はロッカーであるが、最近の県の財政状況では望むことはできないし、科学研究費でこのような備品の購入も認められていないらしい。当面は、プラスチックケースを購入することで対処する算段をしている。すでに150個ほど(1個に50点程度は収納できる)を今年購入した。当初は透明プラスチックケースを使っていたが、光を通すためラベルの文字の退色につながるので、着色のものにした。

(原田 浩：千葉県立中央博物館)



図1. 第3収蔵庫内の地衣類の標本コーナー。



図2. ロッカーの引き出しにカードのように標本を整理。

**Lichenology 日本地衣学会ニュースレター**  
とも、投稿先は：

原田 浩：〒260-8682千葉県中央区青葉町955-2  
千葉県立中央博物館。Fax 043-266-2481.

E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

(原田浩：編集委員長)

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌13号46ページに。

**Notice about photocopying**

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see no. 13, p. 46 of this publication.

**日本地衣学会ニュースレター 20号**

発行日：2003年6月20日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内